

## 近況便り

### はじめに

「地球温暖化の時代は終わり、“地球沸騰”の時代が到来した」とも言われている地球規模での今年の猛暑は、日本でも各地で記録を更新しました。暑さに加えて、海水温の上昇による台風や大雨等の災害への警戒もこれまで以上に必要になっています。皆さんお元気でお過ごしでしょうか。

2023年度、当基金は5月の選考委員会において新規20名、継続34名の合計54名(内外国人留学生4名)の採用を決定しました。6月には、奨学金支給決定書交付会を開催し、全国各地から15名参加いただきました。また、9月には、3年ぶりに工場見学会を実施し、14名参加いただきました。

今回の近況報告は7月初旬から8月初旬にかけて定期試験の時期にもかかわらず、53名から提出いただきました。少しでも他の奨学生の近況を知り、相互理解の役に立てればと思います。忙しい勉強や研究の合間に、ご覧ください。

また、昨年度で当基金の奨学生を終了した皆様からのメッセージを最後に載せていますので是非お読みください。



信州大学  
工学部3年

大学3年となり、相も変わらず多忙ながらも充実した日々を送っている。それもこれも自分の好奇心が原因で少しでも面白そうと思ったら、飛びついてしまうやっかいな性分のせいである。年々その好奇心が強くなってきており、3年に入ってから新しく始めたことが、7つある。まずは、2つの課題解決型インターンシップだ。ひとつは必修の授業であったため、絶対やらなければならないのだが、地域のガス会社の抱える持続可能な社会におけるエネルギー会社の存続について考えて、案を発表する3か月ほどのスパンのものがある。もう一つは、長野県にある塩尻市という市の関係人口創出事業の仕様書づくりをサポートするというものであり、これは塩尻市で活躍するNPO法人の理事の方からお話をいただいて参加した。学生は自分だけで、後は様々な職種でご活躍されている社会人の方がほとんどで、毎度吸収するものが多く、非常に貴重な経験をさせていただいている。また、バイトも新たに2つ始め

た。1つは友達が長野市で店を出そうとしているので、その手伝い。もう一つは、信州大学のグローバル人材養成コースというコースの学生アドバイザーを依頼されたため、最近グローバルコアコースの学生同士の横のつながりを増やすためのイベント作りに奮闘している。概して、巻き込まれる形でいろいろな経験をさせていただいているが、本当に有難いことであり、おかげさまでさまざまな経験ができています。9月の末からは1年間のマレーシアへの交換留学も控えており、それに向けた学習も進める時間を確保しなければと焦っている。そろそろ自分の時間を確保するために、本当にやりたいことは何かを見つけられるような慧眼を養わねばと考えている。結びにこのように活発に行動出来ているのも何より古河記念基金様からご支援いただいているおかげであり、心より感謝申し上げます。



慶應義塾大学大学院  
総合デザイン工学専攻  
修士2年

この度は、古河記念基金の奨学生として昨年度に引き続き採用していただき、誠にありがとうございます。近況について、学会と就職活動をご報告いたします。

去年と変わらずに研究活動を中心に忙しい生活を送っています。修士卒業に必要な単位の修得も順調です。去年は全日本の学会に2回も出ており、自分の研究テーマに関する知見を深めることができました。また、今年も9月に京都で開催する学会に参加する予定です。就職活動ではIT関係の会社を中心に探し、結果としてIT系の会社様から内々定をいただくことができました。自分が今研究している化学分野との親和性は少ないかと思いますが、私は研究活動において今まで中々難しく、解決できない課題を視覚化機能とデータ処理機能を搭載する機器を用いることで配列体の大面積に対して迅速な解析を可能にしました。この経験から、他の領域にも情報学的手法により事業を効率化させることができると考えるため、技術進化が著しく研究や生活を大きく変えてきたITを通じて、社会をサポートしたいと考えています。卒業まで気を抜かずに残りの学生生活を送り、勉学に励む所存でございます。以上、簡単ではございますが、私の近況につきご報告申し上げます。



東京大学  
工学部3年

今学期に行われた、秋学期からのコース分けで、第一希望のシステムコースに振り分けられました。システムコースの研究室で卒業研究を行いたいと考えていたので、ホッとしています。学校生活では、毎週大量の課題に追われています。特に重いのは、製図の課題です。2週間で自動車などの部品について、設計書と図面を仕上げなければなりません。所要時間はだいたい30時間ほどかかり、毎日少しずつ進めています。ただ、設計書や図面を仕上げる過程で、LatexやCADの知識が自然と身についたので、今後の研究や仕事に大いに活かせるだろうと思っています。また、課題を仕上げながら、期末試験の勉強も行なっています。最近、キャンパス内の図書館で勉強しています。図書館は、1928年に完成した歴史ある

建物であるらしく、入口から非常に雰囲気がよく、また静かで涼しく、充電のコンセントもあるので、パソコンの作業もでき、かなりお気に入りの場所になっています。日常生活では、勉強の合間を縫って、大学生になってすぐに始めた、ブラジリアン柔術の練習をしています。今年4月に約2年の練習を経て青帯を取得しました。青帯になると柔術クラスのインストラクターができるらしいので、期末試験が終わったらしてみようと思います。また、最近では、19歳の時から登録していた、骨髄バンクで骨髄移植のドナー候補に選ばれ、検査や日程調整、健康管理を行っています。皆さんにもぜひ骨髄バンクについて知ってもらいたいです。そして、献血センターなどで簡単に登録できるので、1人でも登録者が増えてくれればと思います。近況報告をご覧いただきありがとうございました。



金沢大学  
医薬保健学域薬学類  
5年

昨年度に引き続き奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。今年度は5月から実務実習が始まり、臨床の場で様々な体験をしています。今回は先日終了した薬局実習の話をさせていただこうと思います。

薬局実習では主に調剤、服薬指導を行いました。最初は何も分からない状態でしたが、指導薬剤師の先生方に丁寧に教えていただいたおかげで、最終週になると実習生で処方箋を受け取り、後発品や規格の変更が無いかを確認してから薬を集めてくることができるようになりました。また、最初は自分の調剤した薬に誤りが無いかを確認するのに精一杯でしたが、慣れてきた後はこの薬にはどのような処方意図があるのかなどを推論しながら調剤を行うようにしました。服薬指導を行う際は、処方意図を推察した上で薬を服用する時の注意点などを患者さんに分かりやすくかつ簡潔に説明する必要があります。今まで机の上だけで学んでいた知識を患者さんに還元できることに、とてもやりがいを感じました。最初の薬局の実習期間は4週間と短く、また服薬指導は実習の後半から始まったため、実際に患者さんと接する機会はあまり多くなかったのですが、薬をお渡しする際に「ありがとう」「頑張ってるね」などと声をかけていただいたのが、とても嬉しかったです。



もうすぐ始まる病院実習では、入院患者さんへの対応が中心となるため、患者さんと接する機会は多くなると思っています。薬を通して患者さんが健康になる手助けができるよう、薬局で学んだことも活かして更に頑張りたいです。また、就活はまだ本格的に始めてはいないのですが、実習を通して将来どのような場所で働いたら良いのかも考えていきたいです。



東京大学

工学部

化学生命工学科 4 年

私は現在学部 4 年生で毎日大学で研究の日々を過ごしています。この交流誌では研究のことや最近の自分の生活状況について書かせていただきました。

まず研究のことについて、私は RNA 修飾という分子生物学の研究を行っています。書き出すと字数が足りないので簡単に述べますが、この分野はコロナワクチンなど現時点ですでに多大な影響力があるだけでなく、将来性も果てしなく、人類に非常に大きな貢献をするだろうと思っています。そのため、毎日楽しく熱意をもって研究に取り組んでいます。私の研究テーマは結果を出すまでの過程は大変ですが、結果の内容自体は運の要素が少なく、インパクトはかなり大きいものです。現在の進捗状況としては、依然として結果が出るまでの過程で壁にぶつかり続けており、失敗は成功のもとという言葉信じて、壁を一つずつ壊しながら進んでいます。ゴールに辿り着きそうな兆しはあるので、学部在学中には終わらせ、論文執筆ができればと思っています。

生活に関しては、ここ最近生活リズムが崩れておりすっかり自制をしないといけないと反省しています。実験を夜遅くまでしてしまう癖がついてしまい、寝る直前に夕飯を食べることが増えたりして身体に悪いことが続いています。また、夜型化に伴い、起床時刻も遅くなるのでルーティンが崩れ、運動、朝の論文読みや通学中の読書など当たり前にしてきたことが疎かになってしまっています。特に日課にしていた水泳に行く時間がわからなくなってしまう体重の増加も明らかになってきました。交流誌を書くために自分自身を今一度見返すことができたので、この機会をちょうだいして、しっかりと自分を律し、奨学生としてふさわしい生活を送りたいと思います。

この度は奨学生として採用していただき、ありがとうございます。さて、新型コロナウイルスによる様々な規制が廃止され、ようやく学校で殆どの授業を対面形式で受けることができるようになりました。また、1 年の頃と比べて大幅に増えた専門科目は大変難しく、課題も量が多く大変ですが、本質を理解することを目標に取り組んでいます。加えて、個別指導塾の講師のアルバイトを行いながら、忙しくも毎日充実した学生生活を送っています。

この近況報告書を書いているのは 7 月半ばですが、私は来たる期末試験に向けて勉強に励んでおります。私は 2 年生ですので、一般教養科目も専門科目も両方履修しています。専門科目では、流体力学や材料力学、偏微分方程式やフーリエ変換など、これからの学業や研究活動の基礎となる科目を学んでいます。特に専門科目においてはテストが多く毎月のように実施されるため、日頃からコツコツと勉強するように心がけています。さらに、2 年生の後期にはコース選択、3 年生の前期には研究室配属が行われます。私は、進みたいコースをほとんど決めてはいますが、私の選択した道で後悔することのないよう、今一度自分の興味・関心を見つめ直し、私の本当に研究したいことについて日々考えるようにしています。

最後になりますが、古河記念基金の奨学生であるという自覚を持ち、学業に精進いたします。今後ともよろしくお願いたします。

東京工業大学大学院  
物質理工学院・応用化学系

博士 3 年

ついに博士課程も 3 年目となりました。そのため、修士では経験しなかった就職活動を行いました。運良く 2 ヶ月ほど(12 月から 2 月)で終えることができました。現在は来るべき博士論文に向けて試行錯誤しているところです。

本年度も吉沢研究室で開発した芳香環カプセルの用いた研究をしており、これまでの集大成のような水中および固体状態での分子捕捉や混合物からの抽出を行っています。また、昨年度まで直接指導していた後輩 3 人分の研究の続きをやらなければいけなくなりました。1 人分

はほぼ終わりましたが、残り2人分をどうやって終わらせるか、自分の現在の研究と後輩の指導との両立に日々奮闘しています。

今年度は多くのM1・B4が研究室に入ってきており、新型コロナウイルスに関する多くの制限が取り払われた事により、昨年度よりも賑やかな雰囲気になりました。前述した後輩の指導は、直接教える人は1人しかいないため楽ではありますが、人数が多い分、装置の使い方や実験の後処理など傍から見ていてまだまだ不十分な事が多いです。安全に研究を行ってもらうためにも、時間の許す限り、細かな指導はしつこいくらいやっていきたいと考えています。

今年は既に線状降水帯や猛暑日が発生し、例年よりも豪雨と暑さに苦しみそうな予感がします。気が滅入るような気候ですが、体調に気を付けて頑張りたいと思います。



慶應義塾大学  
管理工学科 3年

私の学科は、管理工学科ということで、3年になってからは、より専門的なことを学び始めました。具体的には、統計(帰無仮説や重回帰分析)や非協力・協力ゲーム、人間工学、など、幅広く学んでいます。

そして、最近IEという分野での実験を行ったのですが、とても面白いものでしたので、紹介したいと思います。

概要は、作業改善を実際に手を動かして、行うとものでした。

具体的には、玉を12個詰めた瓶を24個作るという作業を改善しました。現状案では、手で玉を取って1つずつ瓶に詰めてました。結果310秒とかなり時間がかかってました。

私たちの班は、玉を自分達で作った装置に流し込んで、自動的に(電力とか使わずに)12個入った瓶を24個作ることに成功しました。結果的に、作業終了まで52秒と全24班の中で最速タイムで優勝できました。

この実験を通して、チームで一生懸命考えて、モノづくりをするというやりがいのある実験で、とても楽しかったです。

そして、これからも勉学に励みたいと思います。



東京大学大学院  
情報理工学系研究科  
数理情報学専攻修士2年

昨年より引き続きご支援いただき、ありがとうございます。修士生活も折り返しの時期となり、引き続き研究を行う日々を送っておりますが、いくつか昨年度から変わったこともございます。

まず、私が所属する研究室では週1回のセミナーが行われており、研究室のメンバーが自身の研究について発表しています。そのセミナーが、今学期より原則完全対面、かつ全て英語で行われるようになりました。各々の高度な研究内容について、短い発表時間かつ英語で理解することは非常に大変です。しかし、以前よりも積極的に質問や議論を行うことが出来るようになっており、成長を実感しつつ、貴重な経験をさせていただいております。

また、自分自身の研究成果を発表する機会が段々と増え、分かりやすく伝える方法を意識する機会が増えました。スライドを準備する際は、初めて内容を知る聞き手にとって複雑になりすぎないようにしつつ、有意義な発表となるように内容を充実させるようにしています。これらを意識して研究室のセミナーに臨んだところ、先輩や助教の方から今後の研究の参考となるご意見をいただくことが出来て、聞き手のための努力は自分のためでもあると感じました。

今年度は、自身の研究をまとめる重要な年であり、より一層努力していきますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



東京大学大学院  
理学系研究科  
天文学専攻 博士1年

この度は奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

私は宇宙の高エネルギー現象である超新星爆発について研究を行っています。超新星爆発は星が“死ぬ”時に起こる非常に明るい爆発であり、その一つの明るさは我々の天の川銀河全体の明るさと匹敵します。このような爆発は古来から「客星」として知られており、中国や日本の多くの古文書にその記録が残っています。そのように

歴史書に残っているような「歴史的超新星爆発」の多くはどこで爆発したかが特定されており、その性質を隅々まで調べ尽くされています。しかし、その中でもどこで生じたか不明な超新星もいくつか存在し、藤原定家の記した明月記に記されている1181年の超新星はそのような未解決な歴史的超新星爆発の中で最も新しいものです。1181年に生じたと思われるその超新星はカシオペア座の方向で土星と同じくらいの明るさで180日間光ったと吾妻鏡に記述がありますが、2019年の観測プロジェクトでその方向に超新星の残骸が発見されました。そこで私たちはそのより詳しい観測を行い、その結果からその残骸が実際に1181年に起きた超新星の残骸かどうかを理論的に計算し、おそらくそうであろうという結果を得ました。この結果を5月に報告し、現在プレスリリースの準備をしています。また、私たちの理論モデルでは1181年に起きた爆発残骸に残っている星がここ100年でとても活発になったことを予言しています。この予言は8/26に種子島から打ち上がるXRISMというX線衛星で確認できると考えており、その観測提案を現在執筆しています。

私がこのような研究活動に専念できているのはひとえに古河記念基金の上学生として奨学金を支給していただいているおかげです。本当にありがとうございます。

今後も何卒よろしく願い申し上げます。



熊本大学大学院  
自然科学教育部  
機械数理工学専攻 修士2年

大学および大学院での生活も残り半年ほどとなりました。残りの貴重な大学生活を大切に過ごし、将来のために少しでも多くのことを学ばなくてはいけないなという思いがより一層強くなってきました。

先日、長かった就職活動を終えることが出来ました。その就職活動でも多くのことを学べたと感じています。就職活動を通して、様々な会社にインターンシップへ行ったり、工場見学へ行ったりし、一般の方では見れないような内部のことまで教えて頂く機会などが数多くありました。ここでは、私が大学で学んできたことが実的にどのように使われているのかを見ることが出来、なぜその手法を採用しているのかなども知ることが出来ました。また、社員の

方からは仕事を行う上で直面した課題を解決するためにどのような工夫を行うのか、またその上で必要な能力は何かかなど、働くための心構えなども学びました。

就職活動自体は大変苦勞しましたが、これを通して多くのことを学び、人としても成長できたのではないかと感じています。残りの半年、研究活動に励み、将来のために学び続けていこうと思います。



長岡技術科学大学  
工学部  
物質材料工学課程3年

この度は昨年度に引き続き奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

私が在籍しているのは、高専からの3年次編入学生が学年の8割を占める少し珍しい大学です。したがって、昨年までは15人程度のクラスで授業を受けていましたが、今年は3年生に進級し、編入学生が加わり、約60人のクラスでの授業を受けています。編入学生は出身地や研究分野も異なるため、話を聞くだけでこれまで経験したことのない話を聞くことができ、刺激に満ちた日々を送っています。

私の所属課程は、3年生の2学期から研究室に配属されますが、その配属基準として3年生の1学期の成績が用いられます。そのため、1学期は希望する研究室に行くために、より一層力を入れて勉学に励んでいました。

勉学に励む傍ら、私は今年3月より所属している卓上競技部の部長となりました。しかし、同時に先輩方が卒業し、部員がわずか3人になったため、部活動の運営が困難になりました。これは、数年間にわたって新型コロナウイルス感染拡大防止対策により新入部員の勧誘が制限され新しい部員を迎えることが難しい状況であったためです。しかし新型コロナウイルスが5類に移行されたことで、大学も徐々にコロナ前の状態に戻り、新入部員を勧誘の機会も増えました。そのため、今年度は新入部員の獲得に力を入れ、「飲まない」「吸わない」「賭けない」のクリーンな活動内容をアピールしました。その結果、17人の新入部員を迎え、より活気に満ちた部活動の運営ができるようになりました。



東洋大学  
情報連携学部  
情報連携学科 3年

今年度から古河記念基金様の奨学生として、ご支援いただけることになりました。よろしくお願いいたします。

私の通う大学では、3年生になると大規模な実習の授業が行われます。異なるコースの学生がチームを組み、今年のテーマである「生成系 AI を使う」に取り組んでいます。私たちのチームは、エンジニアリングコース、デザインコース、ビジネスコース、シビルシステムコースの学生で構成され、感情分析をマッピングするプロジェクトに取り組むことになりました。SNS から位置情報のついたテキストデータを収集し、生成系 AI でテキストデータを読み込んで、そのテキストから読み取れる内容をカテゴリに分類し、更に、「喜怒哀楽」の感情を 10 段階で評価して、テキストに紐づけられた位置情報をもとに、視覚的にわかりやすくマッピングするというものです。まだテーマが決まった段階で、プロジェクトリスクやスケジュールなど、困難な点がいくつかありますが、チームメンバーと協力し、形にしていきたいと思っています。プロジェクトは現在、開発段階に進んでいます。感情分析をマッピングする手法について、私たちのチームは熱心に取り組んでいます。今後はデータの収集と前処理、ツールの開発・実装に注力し、より高い精度と有用性を目指していきます。

以上、生成系 AI を使った感情分析をマッピングするプロジェクトに取り組んできた報告でした。異なる専攻の学生が協力し、チームワークを大切にして成果を追求しています。次回の報告では、制作物の成果を詳細にご報告できるよう心掛けます。引き続き応援していただければ幸いです。ありがとうございました。



金沢大学  
理工学域  
物質化学類4年

今年度から古河記念基金の支援を受けさせていただけることになりました。古河記念基金の皆様、誠にありがとうございます。

今年で4年生となり研究室に配属され、研究生活が始

まりました。また大学院試験に向けての勉強も両立しなければならぬため、かなり多忙な日々を送っています。しかし、研究は私にとってとても楽しいことであり、日々失敗や成功の繰り返しで少しずつ前に進んでいます。昔から気になった物事について深く考察することが好きで、実験結果について研究室メンバーと議論することに対し喜びを感じています。

また、最近は読書にハマっていて、自分の学科以外の分野の本をたくさん読んでいます。他学科の学生がどのような事を学んでいるのかに興味があり、また自分の研究にも役立てればよいなと思っています。このような事ができるのも大学生の特権だと感じているので、今後も積極的に学習を行なっていきます。



横浜国立大学大学院  
理工学府機械・材料・  
海洋系工学専攻  
博士1年

この度は奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。本稿では、研究活動に関する近況報告をできればと思います。

私はセラミックス材料を対象に、欠陥分布に起因する部材強度ばらつきを予測するための数値シミュレーションに関する研究を行っています。ここで、対象材料の組織観察から得た欠陥分布を強度解析の入力値とすることで、強度ばらつきの評価を可能としています。今後は、強度試験結果や部材の要求強度を満足するような欠陥分布を推定(逆解析)したいと考えています。そのため、最近では書籍や流行りの ChatGPT 等を利用し、最適化計算や機械学習といったデータ科学について重点的に勉強しています。もし同様の内容について学習している方がいらっしゃいましたら、奨学生同士交流の場等でご教授いただけますと幸いです。

研究成果については、国際誌に投稿した論文(共著者)が 1 報採択されました。現在、他 2 報も国際誌に投稿中(筆頭著者)です。初めて筆頭著者として論文を執筆しましたが、予想を上回る大変な作業であり、年に数十報投稿する研究者の凄さを改めて痛感いたしました。良い査読結果が返ってくればと思います。また、夏～秋に国内学会 1 件および国際学会 1 件(両会、国内開催)での発

表を予定しています。対面開催の国際学会参加は初めてのため、緊張感もありつつ楽しみでもあります。自身の研究内容について多くの方に理解していただけるよう、しっかり準備して臨みたいと思います。

最後に、暑い日が続きますが、皆様体調を崩されませんようご自愛ください。



慶應義塾大学大学院  
開放環境科学専攻  
修士1年

大学院の最初の春学期が終わりました。この学期、私はほとんどの時間を授業と研究に費やしてきました。毎日忙しく過ごしていますが、多くのことを学びました。特に、専門知識だけでなく、リーダーシップ論や Society5.0 に関する知識も学びました。自分の視野を広げ、各業界の優秀な人材に出会う機会を得ました。これらの学びは、私が将来社会に参加する上での貴重な経験だと思います。授業以外の時間は研究に集中しています。私の研究は、NLOS イメージング技術です。これは、直接視線がない場所について情報を取得する技術で、これを用いて建物などに遮られた場所でも、間接的に到達する光を利用して対象物の画像を取得することができます。Society5.0 の視点から見ると、この技術は ICT と社会を融合させ、人間中心の社会を実現する重要な鍵だと思います。私はこの技術が社会全体の安全性と快適さを向上させると信じています。現在、私は深層学習を利用して研究に取り組んでいます。たとえば、光学的なデータから物体を直接識別できるようにコンピュータに学習させます。また、再構築後の結果についても、超解像技術を追加してより信頼性の高い再構築結果を得るための試みも行っています。私は NLOS イメージング技術のさらなる発展を追求し、全力で研究を行っています。来年には具体的な研究成果を得られるよう、日々努力を重ねています。古河記念基金の奨学金は私の研究と学習に大きな支援を提供しており、心から感謝いたします。



北海道大学大学院  
理学院  
修士1年

今回は私の夏休みの計画についてお話ししたいと思います。

夏休みと言っても、普段受けている講義がないというだけで研究室には毎日行くつもりです。ただ講義がない分、研究や勉強、趣味など、やりたいことに時間を割けるという意味では休暇と呼べる気がします。今回は夏休み(8~9月の2か月間)の計画を「研究・勉強・趣味」に分解してお話します。読んで頂く方が退屈しないように頑張ります。

まずは研究について。この夏休みでは研究に最も力を入れて取り組もうと決めています。私は物理学の研究をしており、実験には数時間単位で時間がかかるため、講義やゼミがあると十分な時間を用意することがなかなか難しい。そのため、夏休みでは膨大な時間を使って実験をガンガン進めたいと考えています。(実験室は涼しいため、避暑という目的も実は含まれたりします)

次に勉強について。これは、研究している専門分野とは全く異なる学問を学びたいと考えています。前述の通り、私は物理の研究をしているため、普段は「理系ワールド」に囲まれています。例えば実験室にはおびただしい数の測定器や顕微鏡があり、研究室内のゼミでは「 $\Sigma$ 」や「 $\epsilon$ 」「 $\eta$ 」などの難しい数式やギリシャ文字が頻出します。気分転換の意味でも、物理とは関係ない分野の勉強もしたいと考えました。例えば政治や経済、歴史、哲学に興味があります。(普段ニュースを見ていても理解が追いつかないのでこれを機会に)書店や図書館で本を選んで勉強し、知見が深い人間になります。

最後に趣味について。この夏休みは、中学時代からの友人ら3人でキャンプに行く予定を立てています。このキャンプは毎年開催されており、今年で3回目の「夏の風物詩」です。自分たちで1から道具やスケジュールを準備し、3人で協力してキャンプを成功させたいと思います(成功とは何でしょう)。

以上が私の夏休みの計画です。皆様も夏バテには気を付けてお過ごしください。



東京工業大学大学院  
物質理工学院材料系  
修士1年

お世話になっております。連日、厳しい暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は修士課程が始まって約4ヶ月が経過し、研究活動にも慣れてきた次第です。現在の主な研究内容としましては、航空機のタービブレードなどに用いられ、高温材料として知られるTi-Al 合金の第一原理計算を行っております。第一原理計算とは、実験で得られるパラメータなどを用いずに、量子力学や統計力学のような全く一般的な原理から、計算によってミクロな組織を求めることができるうえに、有限温度での物質の特性などを予測することができる手法のことです。

さらに研究室でのセミナーの発表に向けてスライドの作成等も進めております。なかなか一筋縄ではいかない課題もありますが、先輩や指導教員とのディスカッションを通じて、これからも研究活動に精進してまいります。また、11月には学会発表を控えておりますので、そのための準備と検討を重ね、良い結果を出せるよう努力して参ります。修士課程修了後には博士後期課程への進学を考えており、日本学術振興会のDC1への申し込みも検討しておりますので、自身の研究の意義を深く理解し、その価値を伝えられるように常日頃から心掛けていこうと思います。

結びになりますが、古河記念基金様のご支援のもと、このように研究活動に専念できていることに深く感謝し、これからも励んでまいります。



富山大学大学院  
理工学研究科  
メカトロニクスプログラム  
修士1年

日に日に暑さが増すと同時に、大学院に入学して早半年が経とうとしている今日であります。最近では、私の取り組んでいる研究の中で空飛ぶクルマに搭載可能なアンテナへの重み関数の設定という研究がございます。こちらのアンテナ同士の干渉を防ぐための位相シフトと呼ばれるものの検討を行う事により現

在取り組んでいるアンテナの性能向上を図ることが出来るのではないかと考え、位相シフト量の最適化に現在注力しております。

大学院に入学してからの学びという物は学部生時代と比較して、より専門性の高いものであると痛感しております。例を挙げますと、これまで触れてこなかった流体力学分野を自分の力で理解し、インプットした内容を説明できるようにすることや、自分の行っている研究テーマの中において新しい視点からの課題、アプローチがPDCAサイクルを回すことによって発見できた、という深い学びを得ることがこの短期間の間において可能となりました。この経験は社会に出ていたらなかなか得られないものであり、学業を学んでいこうと考えたことによる恩恵であると考えております。このような学業に専念できる環境を形成していただいていることに心から感謝申し上げます。今後とも何卒よろしく申し上げます。



長岡技術科学大学大学院  
環境社会基盤工学分野  
修士1年

この度は奨学生として採用していただき、本当にありがとうございます。修士学生となり、約4ヶ月たちました。近況の報告として、私の研究について報告させていただきます。

私は土木・環境工学を専攻し、学部時代には省エネ・省コスト型の下水処理システムについて研究していました。この知識を活かし、新たな食糧生産システムであるアクアポニックスを開発しています。アクアポニックスは、閉鎖型陸上養殖と水耕栽培を組み合わせたもので、従来の慣行農法よりも水を8割ほど節水できますが、初期投資が高いという課題があります。そのため、省エネ・省コスト型のアクアポニックスシステムを構築し、開発途上国でも利用できるようにすることを目指しています。

研究では、省エネ・省コスト型水処理装置を使用したシステムが魚や植物の成長にどのような影響を及ぼすかを調査しています。また、水処理装置内の微生物叢を調査し、魚や植物に良好な環境を提供するための微生物の条件も調査しています。最近、ようやく水処理装置を完成させ、研究が本格的に始まりました。学会発表が迫っているため、データ収集に気を引き締めて取り組んでいます。また、魚や植物に関する生態や育成に関する予備知識が不足しているため、研究を進めながら学習を積んでいます。

私の目標は、この研究を通じて持続可能な食糧生産

方法を確立し、将来的には国際的な食料生産の基準となることです。この野望を胸に、研究に取り組んでいきたいと思えます。

以上が近況報告です。



早稲田大学  
基幹理工学部 4年

来週は卒論発表会で、9月を持ちまして早稲田大学の学部を卒業します。3年生になってから研究室に入り、画像圧縮、並列処理に関する研究を行ってまいりました。充実の研究活動を送り、国内学会に2回参加、第一著者で国際学会にて3本の論文を発表(発表予定込み)、そして共著者で国際論文を2本提出しました。去年の10月にIEEE ICIP 2022、今年の6月にIEEE ICASSP 2023、8月にICPP 2023に参加し(または参加する予定)、いろいろな研究者と交流できたことがすごく嬉しいと思っております。

子供の頃から研究者がすごいな、研究者になりたい、という将来の夢があったが、学部での研究経歴で、自分は研究に適していると改めて認識できました。そして、10月から東京工業大学の一貫制博士プログラムに所属することになります。これからも研究に精一杯頑張りたいと思えます。博士卒業してからは大学で教授になることを望んでおり、自分の研究だけでなく、知恵を次の世代へ引き継ぐことに楽しみにしております。



金沢工業大学大学院  
工学研究科  
電気電子工学専攻  
修士 2年

この度は、引き続き奨学生として採用していただき、ありがとうございます。近況報告として、趣味である読書について書かせていただきます。

修士1年の頃は、自身の研究や後輩の指導、就職活動などやらなくてはいけないことが多い時期がありました。就職活動は希望している会社から内々定をいただくことができ、無事に終えることができました。また、後輩もいろいろなことができるようになり、修士2年になってからは時間に余裕ができるようになりました。そのため、趣味だった

読書を再開しました。皆さんは「本屋大賞」をご存じでしょうか。「本屋大賞」は書店員の投票によって決定する文学賞です。大学1年生の頃はミステリー小説ばかり読んでいましたが、最近はいろいろなジャンルの本にも興味が湧いてきて、「本屋大賞」に選ばれた本をいくつか読んでいます。特に2023年本屋大賞に選ばれた本は、登場人物の内面描写がとてよく書かれていて、良い意味で精神的に疲れる作品でした。本を読むことは、ストーリーを楽しむだけでなく、考え方や感情表現が豊かになるため、今後も続けていきたいと思えます。

以上、簡単ではございますが、近況報告とさせていただきます。来年度から社会人として生活していくため、残り半年間は最後の学生生活となります。今までの学生生活が充実していたのは、古河記念基金の皆様のご支援の賜物でございます。今後も奨学生として期待を裏切らないように努力していきたいと思えます。



中央大学  
理工学部 2年

この度は、古河記念基金の奨学生として採用していただきありがとうございます。

7月に入ってから、課題やレポート、期末試験へ向けた勉強などで忙しく過ごしていました。2年生になって、1年生の頃よりも学習内容が難しく専門性も高くなり、また、大学生活とアルバイトの両立もあって忙しい毎日ではありましたが、趣味のスポーツ観戦などで息抜きをしつつ、いつも心に余裕を持っていられるように心掛けていました。

今年の夏休みは、免許合宿と、友人と九州旅行へ行く予定になっています。大学生で自由な時間が多くあるので、今後も日本や海外の様々な場所を訪れたり、何かスキルを身につけたりするなど多くの経験をしていけたらと考えています。

先日、大学のOBで国土交通省で働かれている方のお話を聞く機会があり、仕事内容についてなどとてもためになる話を聞くことができました。そして、自分はまだ大学卒業後の進路や就職について大まかにしか考えることができているため、徐々に詳細な見通しをもっていく必要があるなと思えました。

自分の将来についても考えつつ、勉強、サークル、アルバイト、いずれも精一杯取り組んでいきたいと思ひます。今後とも何卒よろしくお願ひ致します。



東京大学大学院  
農学生命科学研究科  
応用生命化学専攻  
生物化学研究室 博士1年

昨年度に引き続き、ご支援をいただき誠にありがとうございます。私は、マウスが感覚入力からどのように相手の属性の認識を行なつて、適切な社会行動をとつてゐるのかということに興味をもつてゐます。特に未解明な部分が多い、子マウスに対する行動に着目し、研究をしてゐます。性経験のないオスのマウスは、子マウスに対して攻撃し、食殺します。これはマウス特異的な行動ではなく、哺乳類の多くの種で普遍的にみられる行動ですが、その神経メカニズムは種を超えて保存されている可能性があります。性経験のないオスマウスの子殺し行動は第二の嗅覚器官とも言われる鋤鼻器官に発現するフェロモン受容体が必要であると考えられてゐます。私の研究では、性経験のないオスのマウスが子殺しをするのに必要なフェロモンとその受容体の同定、それがどのような神経回路を駆動し、子殺しという行動出力に至るのかというメカニズムを解明することを目的としてゐます。

フェロモンは一般に同種間のコミュニケーションに使われる物質であり、フェロモン分子やその受容体は種により異なり多様であると考えられてゐます。一方で、子殺しや養育行動、性行動、攻撃行動を含む本能行動は多くの種で普遍的にみられ、その神経回路は保存されている可能性が高いと考えられます。なぜ、感覚入力は種により多様であるが、社会行動の中核となる領域や行動出力が共通しているのかというのはまだ解かれてゐない謎です。フェロモン研究は、進化の過程で生物多様性と普遍性が生み出されたメカニズムに迫ることができるという点で魅力を感じ、日々楽しく研究をしてゐます。

貴奨学基金の皆様にご支援いただいたおかげで、研究に邁進することができ、昨年度は学振 DC1 に採択され、修士論文は研究科長賞を受賞しました。今後はさらにモチベーションを高く持つて、来年の国際学会での発表、論文投稿を目指して研究を進めてまいります。



大阪大学大学院  
工学研究科  
修士2年

私は現在、「有機分子のみで構成された多孔質材料を用いた酸素・窒素の選択的吸着」というテーマの研究活動に励む毎日を送つてゐます。研究室への配属から早2年が経ち、研究内容や実験操作に対する理解もだいぶ深まりました。今では研究室内で先輩よりも後輩の数が多くなり、責任感を持つて後輩への指導にも力を入れてゐます。また、昨年秋には学会にも積極的に参加し、研究成果をまとめ上げて発表する力も鍛えました。最優秀ポスター賞もいただくことができ、貴重な経験となりました。

研究室に籠る日々を過ごす一方で、この1年は自分の将来についても特に深く考え、悩みました。博士課程への進学も考えましたが、ずっと目標にしてゐたメーカーの研究開発職としてできるだけ早く経験を積みたいという思ひがあつたため就職活動を行い、メーカーへの就職が決まりました。将来の進路も決まり、あとは卒業に向けて研究活動を精力的に行つていこうと思ひ込んでゐます。

残りわずかとなつた学生生活を悔いのないよう過ごしてゐる中、古河記念基金さまからの奨学金が非常にありがたい存在となつてゐます。金銭的な不安がないために、研究活動だけでなく、プライベートも非常に充実した生活を送つてゐます。ありがとうございます。卒業を迎える来年の春まで、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



東京大学大学院  
新領域創成科学研究科  
先端生命科学専攻  
修士1年

この度は、引き続き奨学生としてお認め頂き、誠にありがとうございます。

大学院では、国立がん研究センターの研究室に所属となり、薬剤耐性微小環境を構成するがん細胞とがん関連線維芽細胞の相互作用に関する研究を行つてゐます。がん細胞の周囲には、多数の非がん細胞が存在してゐます。発がんは、無数の細胞種と生物物理学および生化学的要素からなる周囲の腫瘍微小環境に依存してゐます。中でも、線維芽細胞は、組織の恒常性を維持するた

めに不可欠な存在です。腫瘍が発生する前であっても、近接する腫瘍化を支持する線維芽細胞は、がんの「種」に肥沃な「土壌」を提供し、がん関連線維芽細胞(CAFs)と呼ばれることがあります。そのため、がん関連線維芽細胞は、がん細胞に直接影響を与える細胞として機能しています。そこで、がん細胞と線維芽細胞の相互作用の解明に取り組むことで、今後のがん治療に貢献できると考えています。

そして、今は進路について悩んでいまして、教員になるか研究職で働くかを考えており、就活に取り組んでおります。研究と就活を両立しながら、将来何がしたいかしっかりと考えていこうと思っております。



東京大学大学院  
情報理工学系研究科  
知能機械情報学専攻  
修士1年

私は現在、情報理工学系研究科の知能機械情報学専攻に所属しており、等身大人型ロボットの研究に取り組んでいます。

学部の卒業研究においては、電車やセグウェイといった動く足場で人型ロボットを活動させるため、動く足場におけるバランス制御を研究していました。また理論だけでなく、実際に等身大人型ロボット JAXON をセグウェイ(持ち手のない電動立ち乗り二輪車)に搭載させ、運転させる実験も行ったりしていました。そして、最近この成果がロボティクス分野のトップ国際会議である IROS で採択され、今年の10月にアメリカのデトロイトで発表することになりました。英語は苦手なのですが、頑張ろうと思います。

また、私は制御だけでなくメカの研究にも取り組んでおり、最近是人型ロボット JAXON に搭載されている水冷モーターユニットの改良版の設計製作に取り組んでいます。人型ロボットに搭載するため、小型軽量高強度である事はもちろん、冷却ムラ、流路抵抗といった熱流体的観点に加え、数年単位の水密性、耐熱性、耐食性、さらにメンテ性など、考えることが非常に多く、大変難しい設計でしたが、熱流体解析などを活用して設計製作を完了する事が出来ました。こちらの成果は今年の9月に仙台で開催される日本ロボット学会(RSJ2023)にて発表する予定です。

そして、今後は人間を越えるような身体能力を持つ人型

ロボットの開発のため、引き続きメカと制御の両面で研究を進めて行きたいと考えています。最後になりますが、古河記念基金の皆様のご支援のおかげで、このように研究に専念することが出来ましたことに心よりお礼申し上げます。これからもご期待に応えられるよう頑張っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。



公立諏訪東京理科大学  
工学部  
機械電気工学科3年

この度は、古河記念基金の奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

私は3年生になってから、ゼミ研究のカリキュラムで研究室に仮配属しています。その研究室では蓄電池と空気亜鉛二次電池の研究がされており、私は空気亜鉛二次電池の研究に携わっている4年生の先輩に弟子入りをして、研究に関する様々な知識を教わっています。

空気亜鉛電池は正極に酸素を利用し、その酸素を大気中から供給することで負極の亜鉛を多く積むことができ、通常の電池よりも容量に優れた電池となっています。この空気亜鉛電池を充放電可能にすることができれば、リチウムイオン電池を凌駕するエネルギー密度を持った二次電池になります。またリチウムイオン電池は、温度上昇による発火や爆発等の危険性がありますが、空気亜鉛電池は水系電池であるためそれらの危険が無く、安全に利用することができます。私はこの空気亜鉛二次電池に興味を持ったため、この研究室を希望しました。

電池に関して真面目に勉強したのは高校以来であり、電気化学は勉強し始めたばかりなので、研究に関してまだわからない事が沢山ありますが、卒研本配属とその後の卒業研究に向けてしっかり勉強していきたいと考えております。



立命館大学大学院  
薬学研究科薬科学専攻  
修士1年

今年度も貴基金の奨学生として採用して頂き、ありがとうございます。

さて近況報告ですが、昨年10月から今までの間に4つ

の学会に参加しました。そのうちの1つの学会にてポスター発表で表彰状を頂くことができました。これは、貴基金の援助を頂き、研究に専念できた結果だと考えています。日頃よりご支援いただき、ありがとうございます。

私は精神疾患様行動を示すマウスの脳内環境変化について研究しているのですが、最近の研究活動の中で興味深いデータを得ることができました。それは、データベース上では脳に発現していないとされる遺伝子(タンパク質)が脳において発現している可能性があるということを見つけたことです。これはまだ確定ではありませんが、もしその遺伝子(タンパク質)が発現している脳領域を特定することができれば、面白い論文を書くことができるのではないかと考えています。そのため、今はワクワクしながら研究しています。しかしながら、今回得られた結果から、その発現量はかなり少ないもしくは限られた脳領域に発現している可能性が高いと考えています。そのため、今後の解析にかなり苦労すると思われるのですが、修士を卒業するまでに何とか論文を執筆できるように頑張りたいと思います。

近況報告は以上になります。今後とも、何卒宜しく願い致します。



帝京平成大学  
薬学部 4年

4年生の半分が過ぎようとしておりますが、今年度は、来年2月から始まる薬学臨床実習に備えた授業が増え、最近では薬局や病院などの現場について学習しています。昨年までの実験形式の実習と異なり、薬剤師の業務を想定した実践形式の実習を行っており、情報収集や服薬指導などを実演しながら、コミュニケーションの取り方などの患者対応について学んでいます。また、手技的な面において、薬の調剤などを行う実習を薬局の構造に似た専用実習室にて行っています。座学では、これまでの学習を統合し、課題を通して臨床現場で必要となる実践的な考え方を発表を通してアウトプットする学習に取り組んでいます。

授業以外では、臨床実習を行う病院や卒業研究を行う研究室の配属先を考えるために、就職後のキャリアプランを考えなければならない場面が多くあったため、最近では就活を視野に入れた活動も行っています。病院への就

職や認定薬剤師取得のために、日本病院薬剤師会の学術集会に参加し、近年の薬物治療や薬剤師に関する課題とその対処方法などを知り、大学内では得られない知見を広げることができました。また、感染症の流行があったために参加を控えていたボランティア活動や施設見学に行くことを考えており、学校の先生に相談をしました。さらに、長期休みを利用したインターンシップへの参加申し込みの準備も行っております。

先へ先へと考えなければならない時期で毎日が忙しく過ぎていきますが、充実した生活を送ることができていると思います。目標を見失わないように、機会を見逃さないようにこれからも一生懸命頑張ろうと思います。



慶應義塾大学大学院  
理工学研究科  
システム統合工学専修  
修士1年

平素よりお世話になっております。慶應義塾大学在籍、現在イタリアのジェノヴァ大学へ留学しております。止まらぬ円安の中での留学生活でしたが、皆様からの心強いご支援によりジェノヴァでの学業を完遂することができました。衷心より感謝申し上げます。

ヨーロッパでの修士1年目はロボティクスの基礎を包括的に扱う授業の履修がメインで、研究活動は2年目からとなります。この1年間はメカニクス、制御工学、ROS(ロボットオペレーティングシステム)ベースのソフトウェアアーキテクチャ構築等を学ぶことができました。英語での授業に当初は苦戦しておりましたが、復習や友達との勉強会を通じて以前よりも英語での学習を普通にこなしている自分に成長を感じました。

また、日本とは全く異なる環境に身を置いた生活は多くの新たな学びや発見に満ちていました。特に大きな収穫であったのは、「違いの尊重」と「外から見た日本/日本人」です。留学中、全ての交友関係が順風満帆であったわけではなく、物事の考え方の齟齬をいくつか経験しました。違いを尊重することは大事であると分かっていたつもりでしたが、自分が生きてきた環境の常識を無意識的に相手に期待してしまっている自分に気がつきました。全ての違いを受け入れることは難しくとも、少なくともその違いを尊重することがいかに肝要であるかを学びました。また、1年間日本を離れて生活したことで、日本や日本人、

そして自分自身を客観的に観察することができました。その中で感じたのは、日本人であることの誇りと、これまで日本を作ってきた先人への尊敬と感謝です。自分も今後の人生を通じ自分が生まれ育ってきた国へ貢献したいと強く思いました。

残りの修士生活も研究活動に精進してまいります。今後とも、何卒宜しくお願い申し上げます。改めて、皆様のご支援に心より感謝申し上げます。



芝浦工業大学大学院  
理工学研究科  
社会基盤学専攻  
修士1年

この度は奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。私は橋の疲労損傷に対する補強方法について研究を行っています。「疲労損傷」というのは、1回の作用では部材が破断しない程度の外力でも、繰り返し作用することで、き裂が発生し部材の破断に至ることを指します。近年、鋼橋でこの疲労損傷が多く発生しています。研究では鉄道橋の端補剛材下端部に発生している疲労き裂を対象とした、ずらし量を設けた支圧接合による当て板補強について当て板形状や設置位置を、解析と実験を用いて行っています。端補剛材というものは主桁ウェブの座屈を防ぐために設けられている部材であり、主桁ウェブの荷重の一部を負担する役割があります。端補剛材下端部に疲労き裂が発生すると、下フランジへき裂が進展し、部材が破断する危険性があります。そこで、ずらし量を設けた当て板補強を行うことで当て板が下フランジへと十分に密着し端補剛材下端部に流れる荷重の一部を、当て板をバイパスさせ下フランジへ伝達させることで、端補剛材下端部の応力を低減させます。ここで課題となってくるのが、当て板の形状や設置位置です。

当て板を大きくすることで、荷重を多くバイパスさせることができますが、設置位置には多くの部材が集中しており、ボルトが多くあるため設置位置に制約があることや、検討している当て板補強ではボルト孔にずらし量を設けているため施工性が悪化することが考えられます。そこで現在では解析ソフトに用いて対象橋梁のモデルを作成し、当て板形状や設置位置別による応力低減割合について検

討を行っています。今後は形状や設置位置が決まり次第実験の方へと移り、施工性や実際の応力低減割合について研究を行っていきたいと考えています。



早稲田大学  
先進理工学部  
応用物理学科 3年

今年は3年ぶりに制限がほとんどない夏を迎え、初めての海外旅行を計画しています。行き先はフランス、イギリス、ドイツ、イタリアで、約二週間の長期旅行を予定しています。各国の有名な観光地を巡ったり、異国の文化に触れたりすることが目標です。そのため、現在は英語のスピーキングとリスニングを勉強や、旅行の詳細な計画を進めています。初めての海外旅行なので、日本では経験できない新しい刺激を受けられるという楽しみな気持ちがある一方で、飛行機や宿、交通機関の予約、持ち物、現地でのトラブルなど心配事があるため、入念な準備を進めていこうと思います。

また、今年の12月には卒業研究先が配属されます。現在は、量子情報や表面非平衡物理に興味があります。夏休みの間には、研究先で必要となる量子力学、統計力学、個体物理などの分野を復習する予定です。同時に、未学習の内容や応用的な内容にも取り組み、興味や知識をより一層深めたいと考えています。

コロナ禍が明けた今年の夏だからこそできるチャレンジをたくさんしたいと考えています。引き続き、ご支援のほどよろしくお願いいたします。」



金沢大学  
理工学域  
地球社会基盤学類  
環境都市コース4年

まずは引き続き奨学金の採用をいただき、心から感謝申し上げます。

現在私は水工学研究室に配属され、週に1回のゼミ活動に参加しています。私の研究テーマは「発達した熱帯および温帯低気圧による沿岸災害の気候変動影響の評価」です。近年の地球温暖化に伴って台風や爆弾低気

圧の強化が懸念され、それによる沿岸域における高波や高潮被害に影響を及ぼす可能性が高くなっています。従来の研究では伊勢湾や東京湾など限られた領域が対象でしたが、私の目標は日本全体に領域を拡大し、より包括的な解析を行うことです。

現在は9月に行われる卒業研究中間発表会に向けて準備を進めています。4年生に進級してからの2か月間は、研究テーマに関連する論文を読み込んで知識を深めるとともに、台風や爆弾低気圧を解析するためのMATLABと呼ばれる数値解析ソフトウェアを使いこなせるように勉強してきました。現在の段階では、論文の序論において、台風や爆弾低気圧が日本に与える影響や過去の対策、そして私の研究によってもたらされる貢献について調査を進めています。また、MATLABを使用して実際の台風の経路データを取り入れ、グラフや図を作成しています。今後の進路についてですが、今月上旬に大学院推薦入試の面接を受け、無事合格の結果を得ることができました。したがって、来年からは大学院で現在の研究を引き続き進める予定です。

以上、簡単ではありますが、私の近況報告とさせていただきます。これからも学生生活をより充実させるため、日々努力を重ねてまいります。引き続き応援していただけると幸いです。今後ともよろしくお願いたします。



早稲田大学大学院  
創造理工学研究科  
地球・環境資源理工学専攻  
修士1年

最近の私は、期末レポートと合宿発表の準備に追われています。研究について、エアロゾルサンプルの実験プロセスには大きな問題はありませんが、雨水サンプルを処理する際には、有機物が多すぎるために処理効果が芳しくありません。有機物が多いと、マイクロプラスチックと混ざってしまい、分離や分析が困難になります。最近新しい処理方法を試行しています。もし、雨水サンプルとエアロゾルサンプルの結果を比較分析できれば、微プラスチックの大気中での挙動や降水への影響について、より深く理解できると思います。生活面では、今月から新しいアルバイトを始めました。仕事内容は外国人旅行者向けの周遊券の販売です。私はこの仕事を通して、たくさんの新し

い仲間と知り合いました。彼らはみんな明るくて元気で、仕事も勉強も一生懸命です。私も彼らから刺激を受けています。また、仕事の中で英語と日本語の能力も鍛えています。外国人旅行者に周遊券のメリットや使い方を説明したり、日本の文化や観光情報を紹介したりすることで、コミュニケーションスキルや表現力も向上しています。最後に、今研究とアルバイトの両立に努めています。どちらも私にとって大切なことです。研究は私の専門性や知識を高めることにつながります。アルバイトは私の人間性や社会性を高めることにつながります。これからもご支援を頂いていることへの感謝の気持ちを忘れず、努力を続けていこうと思います。



横浜国立大学大学院  
理工学府  
修士2年

盛夏の候、青草を蒸すような強い日射しの中皆様いかがお過ごしでしょうか。この時候の挨拶というものは便利ですね。これさえ用意しておけば話初めに困ることが無いうえに、アイスブレイクのネタとして十分な効力を発揮してくれます。勿論、これは誌面上に掲載されているので、私には読者がどのような顔をしているか皆目見当はつきませんが、出来る限りにこやかに受け止めてくれることを願います。

さて、私はこの文の最初(あるいは最後の脚注)にかかっている通り、理工学府で修士2年の学生です。一応、来年には博士課程後期に進学し博士1年になろうと考えています。在籍している課程の専門分野としては化学分野ですが、私の所属している研究室は中でも珍しく、ケモインフォマティクスという化学と情報科学の分野の境界領域が専門になります。特に私は自然言語処理を用いた研究をしており、到底化学分野に在籍していたという肩書とは思えない状態です。この分野は化学分野(特に合成の分野においてなど)では使われることの少ない研究領域である一方、薬学分野や食品化学などの生物学との混合領域や、無機材料の合成、触媒分野などの効率的に大量の候補の中から目的の物性を持つ化合物を探したいという分野においてはよく使われることがあります。実際、自然言語処理を利用した仮想分子生成モデルは多く存在し、幾つかの論文ではそれらで生成した分子をデータベースとして公開しています。ChatGPTで似

た化合物を予測させた例などもありますから、化学分野にも実は AI の波が訪れてはいるわけですね。

以上が自己紹介なのですが、近況報告らしくないのでそれを変える魔法の言葉で締めたいと思います。上記の内容が私の学振の 1 頁目の言い換えです。おそらく受からないと思います。



東京都立大学大学院  
システムデザイン研究科  
機械システム工学域  
修士 2 年

私は機械工学をベースとしながら、細胞の接着挙動という生体现象のメカニズム解明に向けて、コンピュータ上で力学モデルを構築・数値解析する研究に従事しています。モデルの構築には、機械工学で学ぶ連続体力学や流体力学、分子レベルの現象を統計的に扱う統計力学、細胞生物学や分子生物学まで幅広い知見が求められ、英語に四苦八苦しなながら論文を読み込んでいます。本研究はシミュレーションがメインですが、共同研究を行っている他研究室の協力を得て、細胞の培養と実験観察にも着手しており、予想外ながらも面白いデータが得られつつあります。私は、機械工学を生体现象に活かすことで医療技術への貢献を目指すバイオメカニクスという学問に惹かれ、現在のテーマで博士後期課程進学を考えています。そのため、年度始めは日本学術振興会特別研究員の申請書の作成に追われていました。計画を練り、文章に落とし込むことの大変さを肌で実感し、指導教官をはじめ、多くの研究者の方々の成果があつてこそ自分の研究があると痛切に感じ入っております。6 月には仙台の国内学会にて研究発表を行い、他大学の学生と広く交流することができました。8 月上旬には学内の期末評価とベトナムでの国際学会があるのですが、本稿執筆時点(7 月末)で研究が難航しており、内心かなり焦っております。英語は苦手ですが、自身の研究の魅力を上手く伝えられるよう頑張りたいと思います。そして、今年度こそは査読付き学術誌への論文投稿を(可能であれば 2 本)行いたいと思っております。



東京農工大学大学院  
工学府  
機械システム工学専攻  
修士 1 年

まず、この場をお借りして古河記念基金の皆様からのご支援に御礼申し上げます。

さて、本報告では私が取り組む研究と進捗について報告します。私は液中において高圧気泡と衝撃波が干渉した際に形成される圧力場の形成メカニズムを明らかにする研究に取り組んでいます。この高圧気泡と衝撃波の干渉現象は、無針注射器や結石破碎技術といった医療技術の制御性に関わっており、医療技術の性能向上のために重要な研究となっています。私は学部 4 年生の頃から数値シミュレーションを用いた干渉現象の解析を行ってきました。9 月下旬にはこれまでの研究成果を学会で発表する予定です。この研究をより発展させるためには実現象とシミュレーションの整合がとれたものにする必要があります。そこで、これまでは数値シミュレーションのみによる現象の解析を行っていましたが、今後はデータ同化の手法を導入して研究を推進していこうと考えています。データ同化に関する学習は今春に始めたばかりで、新しい概念や用語に苦労していますが、よりよい研究成果を得るために日々学習を重ねていきます。

博士前期課程が始まってから現在までの 4 か月は複数の講義があり、研究だけに取り組むわけにはいかなかったため、タスクマネジメントに苦労しました。今後、複数の作業を同時に進める必要がある状況で、この 4 か月で実践したタスクマネジメントの経験を生かしていきたいと考えています。以上、簡単ではございますが近況をご報告申し上げます。



慶應義塾大学大学院  
理工学研究科・基礎理工学専攻  
修士 2 年

本原稿を執筆している 7 月末は、国連のグテーレス事務総長が「地球沸騰化」と喩えたように非常に厳しい暑さが日本列島を襲っていました。皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。私は日傘を差しながら、最寄り駅と大学間の坂道を息切れしながら歩いておりました。体力を向上させなければならぬと日々痛感することになる時期でした。

さて、2023 年は新型コロナウイルス感染症が 5 類へと

移行した変化があり、今夏はマスクを外した人々を見る機会が非常に多い印象を受けました。また花火大会や盆踊りなど夏の風物詩ともいえる行事が復活し、家の最寄りの花火大会は過去最高の来場者数を記録したそうです。コロナ禍前の日常が戻りつつある証拠として、大変嬉しく感じております。

研究に話をうつしますと、今夏はスペインと熊本での学会が控えています。特に前者は私にとって約15年ぶりの海外渡航であり、行先がパラマ島という美しいリゾート地なことも相まって、不安ながらも非常に楽しみにしております。自らの研究成果を余すことなく発表できるよう、修士論文執筆を見据えながら丁寧に準備を進めていく所存です。

本年度は修士課程の最終年ということもあり、大学から続いていた学生生活の集大成ともいえる時期に差し掛かっています。広い視座のもと自らを真摯に見つめ直し、今一度自身の軸や目標を確立させ、悔いのないよう日々邁進していこうと思います。

最後に、平素より厚くご支援いただいている古河記念基金をはじめ関係者の皆様に深く御礼申し上げますとともに、皆様のご健勝をお祈りいたしまして結びとさせていただきます。



京都大学大学院  
工学研究科  
修士1年

この度は、奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

私は、学部2回生の頃から土木工学に強く興味を持ち、現在はその中の地盤力学系の研究室に所属しております。土木と言えば、鉄道や道路、橋梁など、人々の生活に欠かせないものとなっています。しかし、それが当たり前になり、人々がその恩恵に気が付かない状態、これこそが良い土木なのだという言葉聞いたのを契機に、強く関心を抱くようになりました。

4年生時の卒業研究では、場所打ちコンクリート杭に関するテーマに取り組みました。杭基礎は、普段は見えないものですが、あらゆる構造物に不可欠なものです。約半年の期間の研究でしたが、現場見学なども通して、構造物の施工計画から実際に使われるようになるまでにか

けられる労力や、設計基準等の背景にある膨大な実験・検討について、理解を深めることが出来ました。

今年度からは、指導して下さる先生が変わり、テーマも別のものに変更したのですが、土木工学の面から人々のより快適な生活を支えたいという思いは変わりません。修士課程修了後に向けて就職活動もしていますが、将来そのような人材として社会に貢献できるよう、大学院での講義や研究に真摯に取り組む所存でございます。

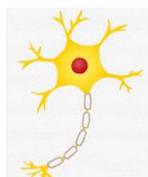


岡山大学大学院  
自然科学研究科  
電子情報システム工学専攻  
修士2年

現在は、研究・授業・就活と忙しくしておりますが、奨学金給付のおかげで学校をやめることもなく、学生生活を送ることができております。誠にありがとうございます。今回は、研究の進捗について近況報告をいたします。

まず私の研究は、超電導線材に発生する損失を最小化するというものです。超電導体は極めて低い温度では抵抗が無くなることが知られていますが、実際は様々な要因で損失が発生します。交流電流の通電も損失が発生する原因の一つで、超伝導線材の実用化の大きな障壁となっています。そこで私は、超電導線材の構造と種類を変えることで損失の低減を行うという研究を行っています。現在は、3種類の超電導線材について超電導特性を実験的に測定し、解析上でそれぞれの最適化を行っています。

以上を、私の近況報告とさせていただきます。学生生活も残すところ半年となりましたが、今後ともよろしく願っています。



京都大学大学院  
理学研究科  
神経生物学専攻  
修士2年

大学院に入学して早くも2回目の夏を迎えました。博士課程への進学を決意し、将来のビジョンを色々と構想しております。学部4年生から始めた研究は佳境を迎え、発表の機会も度々いただいております。私の研究課題は脳や神経回路の機能、果てには生物の「知」そのもの

について、神経細胞のレベルからアプローチしようとするものです。細胞やその内部の微小構造を対象にしており、一部の実験は高い技量を要求します。元々不器用なこともあり、苦心していたものの、修行の甲斐ありようやく難易度の高めた実験にもアクセスできるようになりました。また、学部時代から自主的に勉強してきたプログラミングやシミュレーションも積極的に活用しています。総じて最近では、これまで学んできたことが結実したことを実感する時期でした。技術や知識を身につけると物事に対しとりうる手段が増え、問題を解決しやすくなるという、至極当然な事実を今更ながら認識するようになりました。結局のところ、これこそが生物に「知」が発達してきた進化的背景なのではないでしょうか。

最後になりますが、長きにわたり多大なご支援ありがとうございます。学ばせていただいたことを社会に還元できるよう精進してまいります。今後ともよろしくお願いたします。



長岡技術科学大学  
工学部

環境社会基盤工学課程 3年

この度は引き続き奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。近況報告を2点させていただきます。

初めにメキシコ留学について報告いたします。今年1月から3月まで、メキシコはモンテレイにある大学と交換留学をまいりました。英語とスペイン語を学ぶとともに、アステカ文明から続く悠久のメキシコ史に触れることができました。特に死生観におけるメキシコと日本の差が印象的で、私の考えにも大きな影響を与えました。メキシコでは「死者の日」という祭典に代表されるように、死を悼むと同時に楽しむ場となっており、生と死を自然な流れとして受け入れています。日本文化を否定するわけではありませんが、日本の死生観はそれに比べると負のイメージが少し強いように感じられます。数年前に祖父を亡くした際にショックで体調を崩した私にとっては、メキシコの死生観を受け入れることで、より前向きに死を受け入れられるような気がしています。

次に、サークル活動について報告いたします。私は日本酒研究サークル「しゅがく」に所属しており、大学のある

新潟県の地酒の魅力を体験・発信する活動を行っています。本年度から私は副部長となり、コロナ禍以前の活気を取り戻すべく邁進しております。6月の頭にはサークルと付き合いの深い酒蔵が所有する棚田へ赴き、酒米の田植えと草取りを手伝いました。他にも日本酒に関する勉強会や利き酒大会などを開催しています。9月に開かれる学園祭では新潟地酒の呑み比べセットを販売する予定を立てており、学園祭を盛り上げたいと考えております。

来年は研究室配属があり、研究活動がいよいよ開始されます。今後とも勉学に励み、いただいた奨学金に恥じない活動をしてまいります。



信州大学大学院  
総合理工学研究科  
繊維学専攻 化学・材料分野  
修士1年

私は現在学部の時から続く「L-シトルリンを基盤とした低分子ゲル化剤の開発」というテーマで研究をしています。今までとは違ったゲル化能や物性の発現を目指して試行錯誤しています。また研究室では先輩がで、様々なことを教える過程で自分も学べることも多く、より深く自分の研究分野についての理解を深められています。大学院の授業ではどの授業も専門性の高いものであり、自分が知らないような化学の分野について学ぶことができ楽しいです。休日は研究室の先輩とサッカーやフットサル、ゲームなどをして過ごしています。そして私は先日ホテルの従業員のアルバイトを始めました。まだ新しい環境になっていませんが接客やアルバイトの人同士でのコミュニケーションを通して社会経験を積んでいきたいと考えています。さらに現在は多くの企業が夏の説明会やインターンシップの案内を行っており、いくつかの化学メーカーのインターンシップに応募しています。もしインターンシップに受かることができたなら実際の企業では何を考え、どのように仕事を行っているのかということを知りたいと考えています。



山形大学大学院  
理工学研究科  
化学・バイオ工学専攻  
修士1年

この度は、貴財団の奨学生として採用していただき、ありがとうございます。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

本年度より、修士1年生として、講義や研究活動、就職活動など忙しい日々が続いておりますが、貴奨学金のおかげで経済的な負担が減り、大変充実した大学院生活を送ることができております。

研究活動では、発光材料として極めて優れた特徴を有し、次世代ディスプレイへの応用が期待されております。ペロブスカイト量子ドットに焦点を当て、実用化を目指し、試行錯誤や仲間とのディスカッションを繰り返し、日々邁進しております。

研究以外では、就職活動を意識し、自身の教養や知識を養うため、昨年度よりも多くの本を読むようになりました。最近では、千田琢哉著の「大学時代自分のために絶対やっておきたいこと」を読み、大学での生活が折り返し地点となった現在、これまでに何をして、今後何を目標としていくかを今一度考えるきっかけとなりました。

ご支援に感謝し、今後も本当の意味での充実した大学院生活を送るよう心掛けて参ります。



金沢工業大学  
工学部  
情報工学科 3年

この度は、古河記念基金の奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

さて近況報告ですが、大学の授業について報告したいと思います。3年からは前学期と後学期のそれぞれにある学科の専門実験演習が始まり、前学期は、車型ロボットでコースを走破されるプログラムを作成する演習と想定した顧客の要望を解決するアンドロイドのアプリケーションを作成して、提案する演習の2つを行いました。車型ロボットでコースを走らせる仕組みは、コースの色をロボットが判別してその色によってタイヤの回転数を変化させることで、コースを走ることができるという仕組みになっています。この演習は、色を判別できるセンサーが1つだけであり、コ

ース上に交差する地点があるため、オブジェクト指向を用いて交差点でコースアウトをしないように別の走り方をさせる必要がありました。

私は、この演習で学んだことがありました。それは、問題の原因が認識できていないと複雑な問題であると感じてしまうが、原因が分かると問題を単純化することができるということです。交差点にある色をセンサーが認識した場合に、切り替えを行う際に切り替わっておらずそのままコースアウトしてしまうことが起き、原因を確認できなかった際に、交差点にある色を認識できていないや切り替えることができていないなどの可能性があり原因が分からない問題になっていましたが、切り替え時に音を鳴らすことや記録をとることによって、交差点で何回も切り替えを行っていたという単純な原因であるといったことが分かりました。このことから、人が認識できるような状態になっていると、今回のような単純な原因でも問題の発見が難しくなってしまうと感じました。



東北大学大学院  
工学研究科  
都市・建築学専攻  
修士1年

今年度から古河記念基金の奨学生としてご支援いただき、非常に感謝しております。

学部を卒業し、修士一年となったことで、様々な変化が訪れました。

まず一つ目は研究室のプロジェクトに参加する機会が増えたことです。

学部時代は資料のスキャンや情報の取りまとめなど研究室内で責任の度合いが低い仕事を与えられていたのですが、修士一年に進学すると、資料まとめのフォーマット作成やプロジェクトの代表として指揮を取るなど、責任感のある仕事を与えられるようになりました。慣れない仕事ですが、まずは作業量をこなすことでなんとか教授の求めるクオリティを達成しています。

そして二つ目は徹夜する回数が増えたことです。就職活動、研究室の仕事のみならず、大学院の授業はレベルが高く、また、多くの作業量を求めてきます。それぞれの授業の課題前や発表前には必ずと言っていいほど徹夜しております。しかし、その分多くの専門性のある知識を

得ることができ、非常に充実した大学院生活を送っております。

以上、今年度の3か月間の近況報告とさせていただきます。

今後も、日々精進して参りますので、引き続きご支援よろしくお願いたします。



東京工業大学大学院  
物質理工学院・材料系  
修士2年

暑い日が続いておりますが皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。私自身は季節の変わり目であった6月に喘息を拗らせ一ヶ月ほど入院しており、現在は休んでしまった分を取り返すべく研究やアルバイトに勤しんでおります。大学・大学院を通じて奨学金を頂けているおかげで、課外活動・就職活動・研究活動全て悔いなくやり切ることが出来ています。ただ、一つ心残りな事は入院時期が悪かったために出る予定だった研究の学会に出られなくなってしまった事です。もし他の奨学生の方がご覧になりましたら健康管理だけ気を遣ってもらえたらと思います。最近では毎食の栄養素管理や一日1時間以上の運動を日課として行っており、病気もせず心なしか頭の回転や肌の調子が良くなったように感じられます。研究に関しては昨年と引き続き鉄鋼会社との共同研究を行い、テーマを3つほど同時並行して研究をおこなっております。私自身が発表できる成果にならなくてもお世話になったドクターの先輩の論文や可愛い後輩の卒業のための研究成果が出せればと思い日々研究に勤しんでいる次第です。また手前味噌ではありますが、妹が来年からプロサッカー選手としての進路を考えており兄として非常に誇らしい気持ちがあります。女子サッカーは現在ワールドカップでも勝ち進んでおり、いい結果が残れば国内での人気も高まると思います。妹が怪我なく活躍して、周りの友達と妹の試合を見に行くような週末を送れたら幸せだと感じます。



東京農工大学  
農学部  
環境資源科学科 3年

皆さまからの厚いご支援に深く感謝申し上げます。

今年度私は学芸員実習を履修しております。今回は学芸員実習での近況をお伝えできればと思います。

1年生、2年生と座学を履修し、現在は資格取得のための最終段階に来ております。実習先は大学付属の博物館で、7~8月は実習の一つの目標であるサマーフェスタへ向けての準備に取りかかっています。今年度のサマーフェスタでは、農工大にて東京帝国大学時代から集められてきた岩石標本を扱います。岩石、化石、鉱物の各分野に分かれ、主に小学生と保護者の方をターゲットに展示を作成し来館者とのサイエンスコミュニケーションを行うことを目的としています。展示作りはなかなか難しく、現在しています塾講師のアルバイトとの違いを痛感しています。塾では知識を与えること、そしてそれを習得してもらうことを目的としています。しかし展示では前記のものは目的に含まれず、来館者に何を投げかけるか、展示の内容から何を感じ取ってもらって何を持って帰ってもらうかが重要になると考えています。私自身、1年以上勤めている塾講師の癖が抜けず完全に「展示とは何たるか」を理解できていないと感じています。しかしながら、先生方からのアドバイスをいただいたり仲間と切磋琢磨する中で、だんだんとつかめつつあるように思います。そのこともあり、学芸員としての活動の楽しさもじんわりと感じています。8月下旬の本番へ向けて悔いのないように準備を進めて行けたらなと思っております。



東北大学大学院  
工学研究科  
土木工学専攻 修士2年

この度は引き続き奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。本年度もよろしくお願いたします。

本年度は、修士2年になり、最後の学生生活の年となりました。昨年度は授業、課題、研究の3本立てでしたが、今年は研究を進めることに力を注いでいます。

現在、海外論文の執筆を行っております。また、6月は計算工学会にて研究内容を発表しました。さらに、私が行っている土砂災害シミュレーションは力学を用いた物理シミュレーションですが、それに加えてCGやVRを用いたシミュレーション結果の可視化技術を伸ばす取り組みも行っております。この研究で、専門的な分野の人だけでなく一般人にも結果がわかりやすいように工夫し、災害シミュレーションをより身近なものにすることで、災害に対する意識が少しでも変わることが期待しております。

以上、今年度の近況報告とさせていただきます。これからの学生生活も日々精進してまいりますので引き続きご支援よろしくお願いいたします。



金沢工業大学  
工学部2年

私は2年前学期にマイクロプラスチックとムペンバ効果を用いた凍結促進実験というテーマで研究を行った。ムペンバ効果とは、1963年にErasto B Mpemba氏によって発見された、特定の条件下で高温の水が低温の水より短時間で凍結する現象のことである。だが、確実にムペンバ効果を生じさせる方法がなく、その真偽について約50年もの間議論された、謎多き現象であるため、私はとても興味を抱いた。この研究では、マイクロプラスチックを用いた氷河の再生を目的とし、過冷度が小さい状態での凍結が課題であると分かったため、ムペンバ効果を用いた凍結促進の可否の検討を実験目的とした。また、今回の実験では、凍結要因を水温、水量、水質の3つだと仮定した。実験には水温を30℃、60度の2種類、水量を10ml、30ml、50mlの3種類、水質を一回蒸留水、二回蒸留水の2種類用意した。結果から、水量、水質は凍結との相関が強く、水温は相関が弱いことが考えられた。ムペンバ効果が確認できなかった理由として、今回の実験では、30℃から-10.5℃、60℃から-10.5℃と急激な温度変化を与えることでムペンバ効果の確認を試みたが、60℃の方が凍結時間が増加したため、温度差による凍結において、ある程度の温度を超えるとその相関が見られなくなると考えられる。今後の展望として、設定温度を細分化し、凍結に最も適した温度を模索していきたい。



大同大学  
工学部

電気電子工学科3年

昨年度に引き続き奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。

7月の半ばに、先生と院生による研究室紹介がそれぞれ行われ、8月末ごろにどの研究室に配属されるのかが決まるのですが、第一希望に配属されているのか、その研究室でうまくやっていけるかなどの不安があります。院生による研究室紹介では生徒目線での研究室の内情が語られていて、研究室決めにおいてとても参考になりました。

3年後期にあるセミナーが配属先研究室の教員の下で実施されるということで、約一年半その先生と生徒と共に過ごすということもあり、頑張る先生や同学年の人たちとの距離を縮めていきたいと思っております。

今回の近況報告ではどのような研究をしているかについて詳しく報告できればと考えております。

最後になりますが、古河記念基金の皆様のご期待に応えられるように学業に精進していきます。今後ともよろしくお願いいたします。



中央大学  
理工学部  
数学科3年

私は今大学3年で順調に行けば再来年には教員として一人の社会人になります。そうすると一人暮らしもしないとなと考えており、最近は一暮らしをするにあたってどんな条件の立地でどんな雰囲気の部屋がいいかなどを考えています。

立地については、基本的な最寄り駅やスーパーとの近さに加えて、ジムとの距離も重要視したいです。私は大学から筋トレをしているのでジムが近いと嬉しいです、歩ける距離であればジムでシャワーも済ましてそのまま家に帰ることが出来るととても嬉しいだろうと思います。

また、部屋の雰囲気については私は木の模様やにおいがとても好きなので木彫りの部屋が理想の部屋になります。そして観葉植物は必ず揃えたいインテリアの一つです。

さらに一番こだわりたいところは仕事机です。教員になったら家での仕事もとても多いと思うので、仕事机の使い

やすさは普段の生活にとっても影響するはずなので一切の妥協なく揃えたいと考えています。

## 卒業生から後輩、古河グループへのメッセージ

2022 年度をもって奨学生を終えた方々から、後輩の奨学生や、古河記念基金を支援していただいている古河グループの方々へのメッセージです。

(東邦大学)

この度は、古河記念基金の奨学生に採用していただき、ありがとうございました。

奨学金のご支援のおかげで、薬学の勉強に専念することができ、まだ自己採点の段階ですが、第 108 回薬剤師国家試験に合格することが出来そうです。今後は、この御恩を忘れずに、社会の役に立てる薬剤師になり、社会貢献をしたいです。この度は本当にありがとうございました。

(東京大学 大学院)

古河記念基金のみなさま。お世話になっております。今まで 6 年間大変ありがとうございました。私の家庭は、特に本会採用時点で非常に貧しかったのですが、支援によりアルバイトの時間を大幅に短縮し、学業に専念することができました。来年度は博士課程最終学年となりますが、学位に恥じぬ学位論文を仕上げられるよう頑張ります。

(東北大学 大学院)

2019 年度から 5 年間、古河記念基金より奨学金のご支援をいただきまいりました。一人暮らしで博士研究に専念する生活は決して経済的にゆとりのあるものではありませんでした。感謝申しあげます。私はちょうど博士課程に進学する時にコロナ禍に見舞われました。孤独な中で思うように研究が進まず、心身ともに体調を崩してしまいましたが、最終的には博士研究を仕上げられ、更には大学の総長賞もいただきました。研究室での生活は、限定的な人付き合いの中で慣れない研究を行う特異な環境のため、苦労も多いとお察しします。奨学生の皆さんも諦めず、しかし気負いすぎずに少しずつ歩みを進めてください。きっと卒業時には当時の苦労も笑える明るい日が待っています。

(早稲田大学 外国人留学生)

私は貴財団の二年間にわたる奨学金援助を受け、大学での学業を終えることができました。この場を借りて心から感謝の気持ちをお伝えたく思います。貴財団からの奨学金は、私が学問に没頭することができる環境を整え、さらなる知識を得ることができました。貴財団からの奨学金が、私の学業の支援となり、大学での学びに貢献できたことは、本当に感謝しております。私は貴財団から頂いた奨学金を大切に使い、学業に精一杯取り組んできたことを自負しております。今後は、奨学金を受けた恩返しの気持ちを忘れず、社会に貢献することができるよう、自己研鑽に努めてまいります。貴財団から頂いた奨学金が、私の将来につながる一歩となるようこれからも精進してまいります。

(横浜国立大学 大学院)

この二年間、奨学金を支援していただき、誠にありがとうございました。奨学金をいただいたおかげで、大学院生活を学問に打ち込むことができました。今後は社会人として、多くの人の役に立てるように日々精進していくつもりです。改めて、二年間の支援に深く感謝申し上げます。

(東京海洋大学)

短い間でしたが、多くのご支援をいただき誠にありがとうございました。実際に、奨学金を受ける前と後では大きく生活の質が変わりました。奨学金を受ける前は、金銭的不安がありましたので大学生にも関わらず勉強は後回しにし、毎週5日のアルバイトをして疲弊していました。しかし、皆様から奨学金というチャンスを与えていただき、金銭的に余裕ができると、心にも余裕が生まれ、アルバイトも継続していましたが勉強も捗るようになりました。最終的に卒業して夢を追うことができるのは皆様の支援のおかげです。本当に感謝しています。

(京都大学 大学院)

大学・大学院生活を通して、学業面はもちろんのこと、それ以外の面でも大きく成長できたと確信しております。金銭面で苦心することなく様々な体験をすることができたのは、ひとえに貴基金からのご援助の賜物です。皆様への感謝を忘れることなく、今後も成長を続けて、社会貢献ができるよう精進してまいります。5年間に渡り厚いご支援をいただき、誠にありがとうございました。

(横浜国立大学)

3年間、御支援賜り誠にありがとうございました。無事に大学を卒業するとともに、学外活動やその他、諸活動にも全力で取り組むことが出来ました。お陰様で大学生活を十二分に充実したものにすることが叶いました。短いですが、これにて感謝の言葉と代えさせていただきます。本当にありがとうございました。

(横浜国立大学 大学院)

古河記念基金を支援していただいている古河グループの方々、支援していただき、ありがとうございました。私が大学院で研究活動に専念できたのは、紛れもなく支援のおかげであったと思います。大変感謝しております。

(東京工業大学 大学院)

基金の支援のおかげで、国内外の学会に10件、論文を2本の成果を出すことができました。本当にありがとうございました。

(東北大学 大学院)

こんにちは。5年間、奨学金による支援をしていただきありがとうございました。学業や研究活動に専念することができたのは皆様のご支援のおかげです。私事ですが、本学の工学研究科長賞を受賞することができました。査読付き論文も2本執筆することができ、世の中の役に立つ研究ができたと考えております。4月からは企業で医療機器の開発を行う予定です。大学生活で学んだ知識、経験を活かして、たくさんの人達の診断に役立つ医療機器を開発します。今まで本当にありがとうございました。

(東北大学 大学院)

暖かいご支援本当にありがとうございました。

(東京理科大学)

今までありがとうございました。支援していただき、無事今後の進路が決まりました。また、大学生活で様々なことを頑張ってきて良かったなと感じています。

(慶應義塾大学 大学院)

古河記念基金の役員、事務局の皆様の援助のおかげで、大学院生活を無事に終わらせることができ、誠にありがとうございました。最近自分の2年間の経験を振り返って得られた感想をシェアさせていただきます。

新鮮感が強いかつ研究進捗がスムーズな学部研究生活と比べて、研究の方向性が変えられた2年間の大学院生活は今まで人生の一番挑戦ではないかなと思いました。学部のテーマであるリチウム電池の先行研究が多いことと比べて、大学院の研究分野であるイオン液体を用いた電解研磨は確かに論文数と研究例が少ないかもしれないため、研究最初の勉強と展開に難しいと感じました。また、外部の原因より、自分の不足している部分を強く自覚しました。

例えば、外国語で基盤である専門知識を学んだ私は、知識の統合、システム化が自分の弱い部分だと気付きました。また、論文を完成するには実際に先生のアドバイスをたくさん頂き、問題解決に対して、自分の試しの独自性がまだ足りないと思いました。実は3年間でようやく研究と勉強の違いを深刻に理解することができると考えました。

本当に卒業直前にできると予想し、そして自分が欲しい結果を取得し、落ち込んで難しいと感じた時間が長い2年ですが、いろいろなことを乗り越えることができたからこそ自分がよく成長できたと思いました。今から振り返ると、金銭的な余裕を持つことで、目の前の困難に集中することができて、改めて奨学生を採用して頂きありがとうございました。

コロナ禍で、一人一人は困難に直面し、心境が多少変わったのではないと思いました。実は身の留学生達は大きい衝撃を受け、メンタル面がタフの時間があつたとたくさん聞いたことがありました。その中、学力が高いほど、完璧主義に陥って学業または就職を完成できなかったケースも聞きました。自分も一時的にメンタル的なヘルプを周りクリニックに尋ねて、本当にさまざまな好意を受けて自分の心をより強く築いたのではないかと思います、自分はいろいろな方面で恵まれていると感じました。

人間はやはり社会動物でいるため、社会とのつながりを見つけることで心強く生活することができると感じて、今まで鍛えた心と貰った好意を活かし、社会人として自分の役割を探していきたいと思います。この2年間、いろいろ誠にありがとうございました。

(横浜国立大学 大学院)

みなさまのご支援のおかげで建築を学ぶことに集中できた学生生活でした。実家から離れた横浜での生活は経済的な不安もありましたが、その不安が軽減されアルバイトを減らしても問題なく研究に取り組めたのはご支援があったからです。本当にありがとうございました。また、限られた期間のなかで今しか経験できないこと、今経験するからこそ意味をもつことをしたいと思い、たくさんの建築を訪れ、自分の目で見て、身体で体験することもできました。資料だけではない学びの機械の時間を得ることができたのも、みなさまのおかげです。ありがとうございました。

(中央大学 大学院)

長い間にわたってご支援いただきありがとうございました。おかげさまで、生活費への不安を抱くことなく研究に取り組むことができました。ご縁があり、4月から富士電機で働くことになりました。会社や世の中のお役に少しでも立てるように精進してまいります。また、今回ご支援していただいた皆様のように、恩返しとして将来学生の支援ができればと思います。本当にお世話になりました。

(横浜国立大学 大学院)

博士課程後期の三年間、ご支援いただき誠にありがとうございました。みなさまのサポートのおかげで、日々の研究に励むことができ、無事博士号を取得することができました。みなさまへの感謝の気持ちを忘れずに、今後も精進して研究活動に取り組んでいく所存です。本当にありがとうございました。

(山形大学)

奨学金のご支援のおかげで学業に充実して取り組むことができました。本当にありがとうございました。継続して奨学

生の方、これから奨学生になる方には支援への感謝の気持ちを忘れずに自分のやりたいことを頑張ってください。

(法政大学)

2年間のご支援、誠にありがとうございました。おかげで金銭面の心配なく、学業・研究に専念することが出来ました。これからは大学で4年間学んできたことを活かし、社会に貢献できるよう精進して参ります。

(大阪府立大学 大学院)

本奨学金は、勉学に集中するために必要不可欠なものでした。今後この奨学金を受け取る方は、アルバイト等で授業料などを稼ぐ時間を勉強や研究へあてられると思います。最後に、本奨学金を3年に渡り支給していただいたおかげで、生活に困ることなく学生生活をおくることができました。誠にありがとうございました。

## 事務局から

### 2023 年度奨学金支給決定書交付会が開催されました

6月26日(月)12時から、東京大手町の古河三水会会議室において開催され、昼食を含め約1時間半行われました。5月の選考委員会で確定した奨学生54名(新規20名、継続34名)のうち、15名(うち外国人留学生2名)が授業等の合間を縫って出席、古河記念基金からは古河直純代表理事(日本ゼオン(株)名誉会長)、石山喬様(日本軽金属ホールディングス(株)元社長)、相馬信義様(古河機械金属(株)名誉顧問)、橋本卓業務執行理事の4名が出席されました。

古河代表理事からの当基金設立の趣旨や経緯の紹介と激励のお言葉で始まり、奨学生の自己紹介の後、昼食・懇談と続きました。昼食後、古河代表理事より出席者全員に一人ずつ、奨学金支給決定書が手渡されました。続いて、奨学生が、研究テーマや学生生活などについての2分間スピーチ、最後に、石山様、相馬様からご挨拶があり、奨学生に対する祝福と期待の言葉が送られ終了しました。全体を通し、奨学生同士の会話も弾み、和やかな会となりました。

公益財団法人 古河記念基金  
東京都千代田区大手町 2-6-4  
常盤橋タワー(古河三水会内)  
電話:03-6262-0804  
FAX:03-6262-0806